

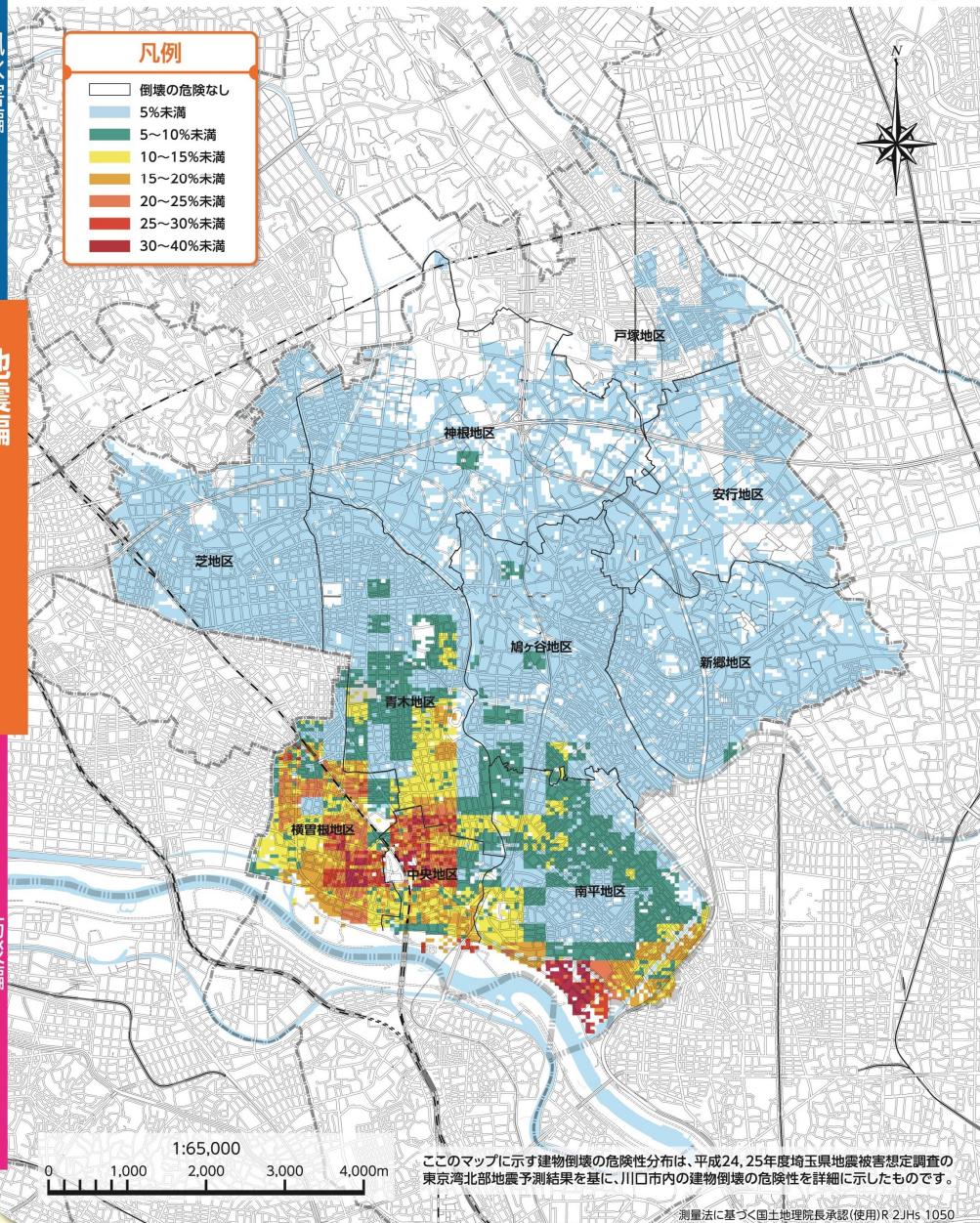
## 建物被害予測マップ(地域の危険度マップ)

建物被害予測マップは、首都直下地震が発生した際の市内の想定震度を用いて、町丁目別に集計された構造別・建築年次別の建物データから倒壊被害の危険性を予測したもので、危険がある場所のメッシュを赤(建物全壊棟数率30%~40%未満)から白(倒壊の危険なし)の8段階で色分けしています。

### 凡例

- 倒壊の危険なし
- 5%未満
- 5~10%未満
- 10~15%未満
- 15~20%未満
- 20~25%未満
- 25~30%未満
- 30~40%未満

風水害編  
地震編  
防災編



## 地盤の液状化危険度マップ

地盤の液状化危険度マップは、想定震度を「震度6強」として、地形や地盤の状況から液状化の危険性を予測したもので、液状化危険度を町丁目別に赤(危険度が極めて高い)から青(危険度はかなり低い)の4段階で色分けしています。

### 凡例

- 液状化の危険度はかなり低い
- 液状化の危険度は低い
- 液状化の危険度が高い
- 液状化の危険度が極めて高い

東日本大震災(震度5強)では、市内で液状化の報告は1件でした。

風水害編

地震編

防災編

